

本会のこれまでの活動記録

関西大学倫理学研究会はこれまで関西大学生命倫理学研究会という名のもとに、次のような活動を進めてまいりました。所属・役職名は発表当時のものです。敬称略。

- 第1回 1998年1月30日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
後藤博和（関西大学非常勤講師） 小松美彦・柳田邦男の著作について
- 第2回 1998年2月18日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
岡田篤志（関西大学非常勤講師） 森岡正博の著作について
後藤博和（関西大学非常勤講師） 先端生殖医療の問題点
- 第3回 1998年3月14日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
三村尚彦（関西大学文学部講師） 心の哲学について
岡田篤志（関西大学非常勤講師） 安楽死・尊厳死問題
- 第4回 1998年4月30日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
後藤博和（関西大学非常勤講師） 中絶問題について
- 第5回 1998年5月28日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
ディスカッション 加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）をめぐって
- 第6回 1998年6月25日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
中村光世（関西大学非常勤講師） 心と脳：最新の脳科学の知見から
- 第7回 1998年11月1日 於：関西大学文学部哲学合同研究室
ディスカッション 臨床の現場から
コメンテーター 細岡智恵子（看護師・関西大学文学部学生）・谷口恵子（看護師・関西大学文学部学生）
- 連続読書会 1999年 於：関西大学文学部哲学合同研究室
立岩真也『私的所有論』（勁草書房、1997年）を読む
- 第8回 2000年4月15日

これまでの活動記録 (『倫理学論究』, vol.1, no.1, (2014), pp.47-51)

岡田篤志 (関西大学非常勤講師) 生命倫理における「自己決定」の再考のために
第9回 2000年7月22日 於: 関西大学文学部哲学合同研究室

森下雅一 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) ケアという観念

品川哲彦 (関西大学文学部教授) ケア観念の位置 自己決定尊重と善意尊重の間で

連続読書会 2000年 於: 関西大学文学部哲学合同研究室

ヘルガ・クーゼ『ケアリング 看護婦・女性・倫理』、竹内徹・村上弥生監訳 (メディカ出版、2000年) (原著: Helga Kuhse, *Caring: Nurses, Women and Ethics*, Blackwell, 1997) を読む。

第10回 2001年1月27日 関西大学尚文館 503 教室

森下雅一 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) 書評: R・マニング「ケアのアプローチ」(Rita C. Manning, "A Care Approach", in *A Companion to Bioethics*, edited by Helga Kuhse and Peter Singer, Blackwell Publishers, 1998)

品川哲彦 (関西大学文学部教授) 書評: A・C・ベイヤー「正義を超えるものが必要である」(Annette C. Baier, "The Need of More than Justice", in *Science, Morality and Feminist Theory*, edited by Marsha Hanen and Kai Nielsen, University Calgary Press, 1987.)

後藤博和 (関西大学非常勤講師) 書評: シスター・シモーヌ・ローチ『アクト・オブ・ケアリング ケアする存在としての人間』、鈴木智之・操華子・森岡崇訳、ゆみる出版、1996年)

第11回 2001年7月29日 於: 関西大学尚文館 507 教室

後藤博和 (関西大学非常勤講師) 「死者の現象学」へ向けて 脳死移植問題の一考察

加藤恵介 (神戸山手大学人文学部助教授) 死と共同性 「共鳴する死」の手前で

岡田篤志 (関西大学非常勤講師) 浮遊する自己決定 臓器移植法改正によせて

雑誌連載 *Emergency Nursing* (メディカ出版) 誌の特集「From 大学 to ナース・ステーション ケアとケアの倫理について考える」:

第1回 品川哲彦 (関西大学文学部教授) 「ケアの倫理 が語られる理由」(ibid.,

これまでの活動記録 (『倫理学論究』, vol.1, no.1, (2014), pp.47-51)

vol.14, no.11, 2001, pp.51-56)

第2回 後藤博和 (関西大学非常勤講師) 「『女性の気遣いにはかなわない』?

ケア役割と性差」(ibid., vol.15, no.1, 2002, pp.70-75)

第3回 横田恵子 (大阪府立大学社会福祉学部講師) 「ソーシャルワーカーの見る

風景 ケアを担う人々の傍らにて」(ibid., vol. 15, no.2, 2002, pp.76-79)

第4回 谷口恵子 (大阪大学医学部附属病院) 「看護婦が働きながら大学で学ぶ

ということ」(ibid., vol. 15, no. 3, 2002, pp.41-44)

第5回 森下雅一 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) 品川哲彦 (関西大

学文学部教授) 「人間科学としての看護 ワトソン看護論を読む」(ibid., vol. 15, no. 4, 2002, pp.80-83)

第6回 高井雅弘 (関西大学非常勤講師) 「見知らぬ他人に対してドアを開ける

こと ジャック・デリダの『歓待』について」(ibid., vol. 15, no. 5, 2002, pp.58-61)

第7回 細岡智恵子 (丸紅健康保険組合健康開発センター) 「看護婦として大学

で学べたこと」(ibid., vol. 15, no. 6, 2002, pp.82-86)

第8回 岡田篤志 (関西大学非常勤講師) 「『ケア』が安楽死を肯定する?

ヘルガ・クーゼ『ケアリング ケアリング・女性・倫理』の衝撃」(ibid., vol. 15, no. 7, 2002, pp.40-43)

第9回 品川哲彦 (関西大学文学部教授) 「ケアの倫理 が語られる理由、ふた

たび」(ibid., vol. 15, no. 8, 2002, pp.59-62)

第12回 2002年3月9日 於：関西大学尚文館504教室

森下雅一 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) ケアリングに関する一考察

ホスピスの場面を手がかりに

「ケアとケアの倫理について考える」(Emergency Nursing 誌連載) 合評会

第13回 2003年9月13日 於：関西大学尚文館504教室

杉本健郎 (関西医科大学男山附属病院小児科部長) 子どもの脳死・移植

森下雅一 (広島市立観音中学校非常勤講師) ケアリングについての臨床的考察

訳書の刊行 2004年1月1日

これまでの活動記録 (『倫理学論究』, vol.1, no.1, (2014), pp.47-51)

ロバート・M・ヴィーチ『生命倫理学の基礎』、品川哲彦監訳、後藤博和・岡田篤志・伊藤信也訳 (メディカ出版)

第14回 2008年12月20日 於：関西大学尚文館 407 教室

須川重光 (藍野大学助手・関西大学大学院文学研究科博士前期課程) 寝たきり高齢者
とかかわること リハビリテーションという営みから

徳田尚之 (関西大学大学院文学研究科博士後期課程) カントの人格とカント的人格
概念の整理と準備的考察

第15回 2009年5月30日 於：関西大学尚文館 507 教室

哲学カフェ 臓器移植法改正 あなたは、どう思う？

第16回 2009年10月3日 於：関西大学尚文館 401 教室

『岩波講座哲学8 生命/環境の哲学』(2009年)の2論文の合評会

(1)品川哲彦「つかのまこの世にある私/私たち」

コメンテーター 森本誠一 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)

リプライ 品川哲彦 (関西大学文学部教授)

(2)霜田 求「生命操作の論理と倫理」

コメンテーター 徳田尚之 (関西大学大学院文学研究科博士後期課程)

リプライ 霜田 求 (大阪大学大学院医学系研究科准教授)

第17回 2010年7月10日 関西大学尚文館 502 教室

(大阪府立大学「生命の哲学」研究会と合同開催)

ワークショップ パーソン概念について

森岡正博 (大阪府立大学人間社会学部教授) パーソンとペルソナ パーソン論
再考

品川哲彦 (関西大学文学部教授) ふくらみのある尊厳のためのノート

Persönlichkeit 概念について

第18回 2012年3月16日 関西大学尚文館 401 教室

アメリカの近年の生命倫理学の文献から

松尾 悠 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) 書評：E・フェントン「リベ
ラルな優生学と人間の本性 ハーバマス論駁」(E. Fenton, "Liberal Eugenics
and Human Nature: Against Habermas", in *Hastings Center Report*, vol. 37, no.

これまでの活動記録 (『倫理学論究』, vol.1, no.1, (2014), pp.47-51)

6, 2006)

南木喜代恵 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) 書評: C・S・キャンベルと J・C・コックス「ホスピスと医師の幫助による死 協働、コンプライアンス、共犯関係」(C.S. Campbell and J.C. Cox, "Hospice and Physician-assisted Death: Collaboration, Compliance and Complicity", in *Hastings Center Report*, vol. 40, no. 5, 2010)

品川哲彦 (関西大学文学部教授) 書評: J・T・バーガー「緩和セデーション使用のガイドラインの再考」(J.T. Berger, "Rethinking Guidelines for the Use of Palliative Sedation", in *Hastings Center Report*, vol.40, no.3, 2010)

第 19 回 2013 年 1 月 19 日 於: 関西大学尚文館 502 教室

松尾 悠 (関西大学大学院文学研究科博士前期課程) エンハンスメントについて

南木喜代恵 (関西大学大学院文学研究科博士後期課程) 書評: K・ラウス他「生の終わりにおける持続的な深い鎮静と『自然な死』仮説」(Kasper Raus, Sigrid Sterckx and Freddy Mortier, "Continuous Deep Sedation at the End of the Life and the 'Natural Death' Hypothesis", in *Bioethics*, Vol.26, No.6 (2012): pp.329-336)

ディスカッション アウシュヴィッツ強制収容所博物館のDVDをみて話し合う

第 20 回 2013 年 7 月 20 日 於: 関西大学尚文館 404 教室

Hans Jonas の哲学

戸谷洋志 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程) 「乳飲み子」を「見る目」

ハンス・ヨナスの責任倫理学における認識論について

吉本 陵 (大阪府立大学客員研究員) ハンス・ヨナスの生命の哲学について

品川哲彦 (関西大学文学部教授) 「神にたいする人間の責任」という概念は成り立ちうるか

第 21 回 2013 年 12 月 5 日 於: 関西大学尚文館 406 教室

南木喜代恵 (関西大学大学院文学研究科博士後期課程) 書評: M・L・グロス「医療化された兵器と現代の戦争」(Michael L. Gross, "Medicalized Weapons and Modern War", in *Hastings Center Report*, vol. 40, no.1, 2011, pp. 34-43)

哲学カフェ 「尊厳死」という概念のあいまいさ